

Citation: Homik J, Suarez-Almazor ME, Shea B, Cranney A, Wells G, Tugwell P. Calcium and vitamin D for corticosteroid-induced osteoporosis. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 1998, Issue 2. Art. No.: CD000952. DOI: 10.1002/14651858.CD000952.

CRG名: Musculoskeletal

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 30 November 1997

Clib issue No.; N/U: 2007 issue 4; -

背景: 骨粗鬆症とその後の骨折は、病的状態および死亡の主要原因のひとつである。これは低骨量によって定義され、異なるパターンの骨喪失を呈する多くの病因がある。ステロイド療法は骨粗鬆症の寄与因子である。ステロイドは多様な複合メカニズムによって骨喪失を引き起こす。ステロイドを開始する患者には予防的治療(カルシウム、ビタミンD、エストロゲンまたはビスホスホネート)を行うべきであると示唆されている。

目的: 全身的にステロイドを投与されている患者の骨喪失の予防について、カルシウムとビタミンDの効果をカルシウム単独またはプラセボと比較評価する。

検索戦略: Cochrane Musculoskeletal trials register、Cochrane Controlled Trials Register、EMBASEおよびMEDLINEを1996年まで検索した。また、様々な学術集会の抄録および選択した試験の参考文献リストをハンドサーチした。

選択基準: 全身的にステロイドを投与されている患者を対象にカルシウムとビタミンDをカルシウム単独またはプラセボと比較しているすべてのランダム化試験。

データ収集と分析: 2名のレビューアが試験からデータを抽出した。同様の方法で方法論の質を評価した。固定効果モデルを用いて解析を行った。

主な結果: 患者274例を対象とした5件の試験が選択された。カルシウムとビタミンD開始から2年後の時点で解析を行った。治療群とコントロール群との間に腰椎の骨塩密度[重み付け平均差(WMD)2.6(95%CI0.7、4.5)]および橈骨の骨塩密度[WMD2.5(95%CI0.6、4.4)]に有意なWMDがあった。その他の指標(大腿骨頸部の骨量、骨折の頻度、骨吸収の生化学的マーカー)に有意差はなかった。

レビューアの結論: 本メタアナリシスから、ステロイド治療患者において、ビタミンDとカルシウムにより腰椎および前腕の骨喪失が臨床的および統計学的に有意に予防されることが示された。毒性が低く、費用が安いいため、ステロイドを開始する患者全員にカルシウムとビタミンDによる予防的治療を行うべきである。

(監訳 尹忠秀)

翻訳公開日: 08年1月11日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。